

6月22日(火曜日)

文化

# 記憶の建築 十選

昭和の公共空間

京都市繊維維大学教授 松隈 洋

1945年8月6日、<sup>原爆</sup>廃墟化した広島<sup>の町</sup>。世界で最初に投下されたその記憶を刻む「原爆ドーム」(旧産業奨励館)

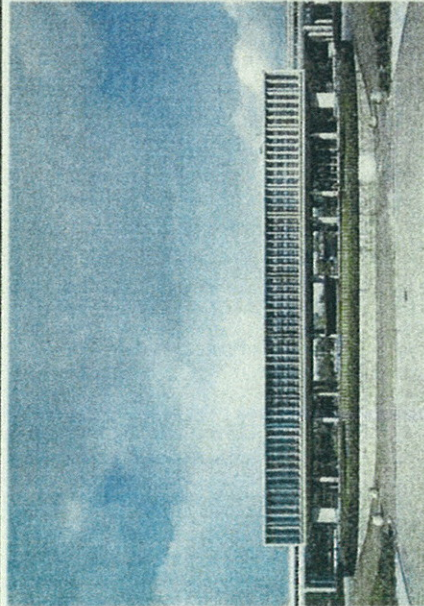


写真 清水 真

丹下健三「広島平和記念資料館」

◇8

が、96年、ユネスコの世界遺産に登録された。この原爆の悲惨さを伝える平和のシンボルを400坪先に遺望し、慰霊碑を間に挟んで建つのが、丹下健三の広島平和記念資料館である。49年に行われた「広島平和記念公園及び記念館競技設計」で145点の中から1等に選ばれて建設された。そこには、広島の過酷な現実の向こうに、原爆ドームを戦争を記憶するシンボルとして扱い、平和記念資料館を「平和を創り出すための工場でありたい」と希求した丹下の建築的構想力が結果した公共空間の姿がある。(1955年、広島市)

6月21日(月曜日)

文化

# 記憶の建築 十選

昭和の公共空間

京都市繊維維大学教授 松隈 洋

心躍る夢のようなプロジェクシエクトだったに違いな戦後初の新設の美術大学



写真 清水 真

吉村順三「愛知県立芸術大学」

◇7

として桑原幹根知事の発案で構想され、カリキュラムの作成から建物の計画まですべてが東京芸術大学に委ねられたのである。そのプロジェクトをまとめたのが、当時の建築科教授の吉村順三と助教授の奥村昭雄だった。他の教授陣と門下生の協力の下、総力を挙げて設計に取り組み、1964年の計画開始から7年の歳月をかけてこのキャンパスを完成させる。敷地はのどかな農村の40万平方メートルにおよぶ丘陵地。吉村らはその自然の広がりを活かして建物を分散化し、間に生まれる「原っぱ」のような空間が、教師と学生たちの日常的な制作と交流のための広場になることをめざした。学生時代からレモンに師事し、卒業後も彼の事務所に学んだ吉村は、戦後、母校で教えないが、日本の伝統を咀嚼したシンプルで居心地の良い住宅を数多く手がけた。その精神が隅々まで注がれたキャンパスは、独自の校風を育んでいく。この「原っぱ」からは名物教授・榎田伸也の下、奈良美智や小林孝巨、加藤美佳ら世界で活躍する現代作家が巣立っている。(1971年、愛知県愛知郡長久手町)